

地域医療連携・訪問看護に関する臨床指標1

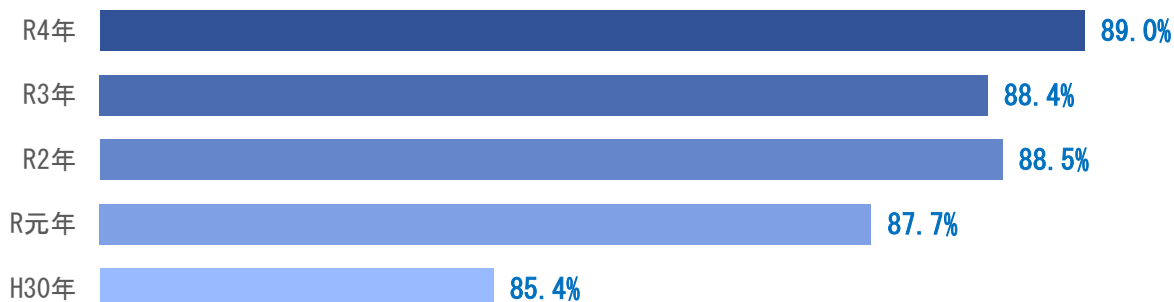
指標名		H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	説明
紹介率		85.4%	87.7%	88.5%	88.4%	89.0%	最初に地域の診療所や病院を受診した患者さんでより高次の治療が必要となり、長野赤十字病院に紹介されてきた患者さんの比率です。(紹介患者数÷初診患者数)(H26年から地域医療支援病院の計算式変更)
逆紹介率		99.8%	101.9%	103.3%	105.6%	103.6%	長野赤十字病院ができるだけ急性期の患者さんの治療に専念できるよう、地域の診療所や病院と連携し、急性期の治療が終わった患者さんの管理をお願いしている比率です。(逆紹介患者数÷初診患者数)(H26年から地域医療支援病院の計算式変更)
地域医療連携パス	脳卒中パス	121件	113件	115件	126件	103件	地域医療連携パスとは、急性期病院での治療を終了した後に地域の病院や診療所と連携し治療を継続する為の工程表の事です。 多くの患者さんがパスを利用した場合、より地域の病院や診療所と連携が取れていることを示しています。
	大腿骨頸部骨折パス	21件	22件	27件	25件	21件	
	冠動脈術後パス	0件	0件	0件	0件	0件	
	糖尿病パス	0件	0件	0件	0件	0件	
	肺がんパス	0件	13件	0件	0件	0件	
	胃がんパス	24件	14件	17件	10件	4件	
	肝がんパス	8件	2件	0件	0件	1件	
	大腸がんパス	33件	23件	18件	19件	23件	
乳がんパス	3件	2件	4件	5件	0件		
入退院支援加算 I 算定率		10.0%	11.7%	13.0%	19.3%	18.7%	入院前及び入院後の早い段階から、退院に向けて支援が必要な患者さんを把握し多職種で支援を行っている患者さんの比率を表しています。そのための人員配置や支援の仕組みを作っています。

地域医療連携・訪問看護に関する臨床指標2

指標名		H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	説明
介護保険認定数		106件	117件	111件	96件	98件	<p>訪問看護とは、住み慣れた自宅で安心して療養生活が送れるよう、主治医の指示のもと訪問看護師がお宅までお伺いし「看護」を提供することです。医療ニーズの高い方はもとより難病・小児・終末期・リハビリなど様々な利用者様に対応しております。</p>
訪問看護の主な疾患	脳血管疾患	16件	17件	13件	10件	11件	
	循環器疾患	18件	18件	23件	18件	21件	
	神経難病	45件	37件	47件	57件	47件	
	腫瘍・癌	15件	18件	26件	29件	22件	
	整形外科疾患	24件	16件	12件	9件	8件	
	呼吸器疾患	16件	20件	13件	15件	16件	
	精神及び行動障害(認知症)	36件	39件	42件	39件	40件	
	血液疾患	13件	15件	20件	12件	10件	
その他	28件	34件	32件	29件	28件		
訪問看護訪問件数		14,080件	14,929件	15,132件	13,885件	12,958件	
訪問の頻度	週4回以上	4件	6件	6件	4件	5件	
	週3回	12件	15件	13件	9件	8件	
	週2回	38件	35件	40件	44件	44件	
	週1回	94件	100件	100件	88件	70件	
	2週に1回	39件	35件	42件	51件	44件	
	月に1回以下	24件	27件	27件	32件	30件	
時間外の対応回数	携帯電話対応(月平均)	159件	219件	107件	88件	82件	
	緊急時訪問回数(月平均)	55回	68回	62回	54回	40件	

5) 地域医療連携・訪問看護に関する臨床指標

紹介率

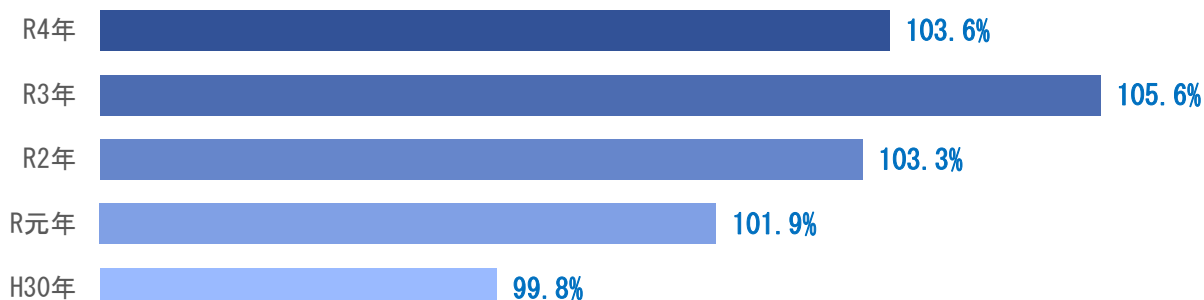


$$\frac{\text{分子} : \text{年間紹介患者数}}{\text{分母} : \text{年間初診患者数}} \times 100$$

※H26年から地域医療支援病院の計算式変更

最初に地域の診療所や病院を受診した患者さんで、より高次の治療が必要となり、長野赤十字病院に紹介されてきた患者さんの比率です。

逆紹介率



$$\frac{\text{分子} : \text{年間逆紹介患者数}}{\text{分母} : \text{年間初診患者数}} \times 100$$

※H26年から地域医療支援病院の計算式変更

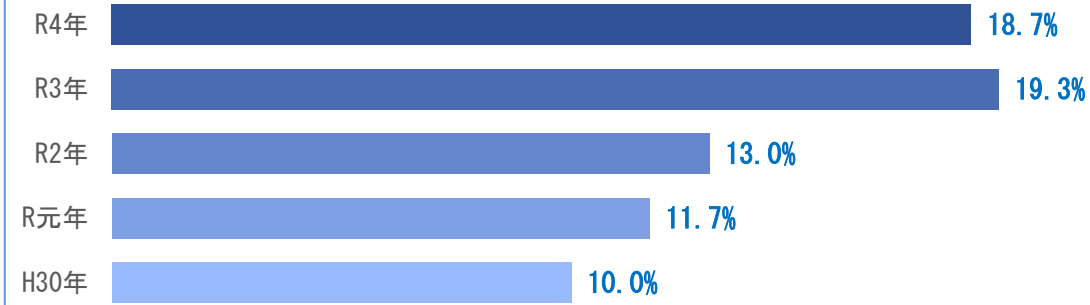
長野赤十字病院ができるだけ急性期の患者さんの治療に専念できるよう、地域の診療所や病院と連携し、急性期の治療が終わった患者さんの管理をお願いしている比率です。

紹介率とは、当院を受診した患者さんのうち、他の医療機関から紹介された患者さんの割合です。また、逆紹介率とは、当院から他の医療機関へ紹介した患者さんの割合を示す数値です。

近年、人口の急速な高齢化等を背景に、地域の医療機関の役割分担と連携を図ることが求められています。症状が軽い場合や普段の健康管理を「かかりつけ医」が担い、専門医療や高度医療を担う医療機関へは「かかりつけ医」からの紹介状を持って受診する。そして、症状が軽減した場合には、再び「かかりつけ医」で治療を継続するというような、地域完結型医療を推進する必要があります。

紹介率・逆紹介率の数値は、地域の医療機関との役割分担・連携を示す指標であり、この数値が高いほど、患者さんの病状に応じた医療の提供ができていると考えられます。

入退院支援加算 I 算定率



$$\frac{\text{分子} : \text{年間入退院支援加算 I 算定数}}{\text{分母} : \text{年間退院患者数}} \times 100$$

入院前及び入院後の早い段階から、退院に向けて支援が必要な患者さんを把握し多職種で支援を行っている患者さんの比率を表しています。そのための人員配置や支援の仕組みを作っています。